

令和2年度 第2回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：令和2年6月16日（金）16:00～17:30

2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 201会議室

3. 出席者：

(委 員)

近藤議長、上村委員、喜連川委員、鹿野委員、昌子委員、
千葉委員、永井委員、米田委員

(事務局)

三島理事長、梶尾理事、真先執行役、難波統括役、阿蘇経営企画部長、橋本総務部長、吉徳経理部長、松澤研究公正・業務推進部長、浅野実用化推進部長、野田国際戦略推進部長、岩本研究開発統括推進室長、竹上医療機器・ヘルスケア事業部長、鎌田再生・細胞医療・遺伝治療事業部長、水野ゲノム・データ基盤事業部長、一瀬疾患基礎研究事業部長、奈良坂シーズ開発・研究基盤事業部長、林革新基盤創成事業部長、保坂経営企画部次長、釜井創薬事業部次長、宮川疾患基礎研究課長

4. 議事

1. 健康・医療戦略及び医療分野研究開発推進計画等について
2. 外部評価報告書（案）について
3. その他

5. 議事の概要

【議事1. 健康・医療戦略及び医療分野研究開発推進計画等について】

事務局より資料1～3を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

○AMEDの第1期中長期目標期間においては各省庁の縦割というものがあり、色々問題があったと聞いている。今回の研究開発統括推進体制というものは、非常に細かく人員配置がされ、どこに各省庁の疾患関係事業の担当者がいるか非常にきめ細かく配置されている。ある意味では非常に分かりやすく、責任の分担の形が明確になっており、これは前期の経験に基づいているのではないか。

それなりの責任がなければ各事業の担当者仕事ができないので、そういう意味で非常にできている仕組みではないか。

【議事2. 外部評価報告書（案）について】

事務局より資料4、参考資料1～5を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 若い研究者をどう育てるかという視点は重要。
- 引き続き、基礎研究から得られたシーズを臨床現場における実用化に結びつけるトランスレーショナルリサーチに加え、臨床現場で得られる課題や情報をさらなる研究開発に活用するリバーストランスレーショナルリサーチの概念もしっかりと取り入れていただきたい。
- 機構には、実用化だけでなく基礎研究がおろそかにならないようにその重要性を認識することが重要。
- 臨床や研究の現場から得られたシーズがどのように利用可能であるか、研究機関、研究者からの相談を受ける仕組みも検討されることが求められる。
- 業績や機構の活動等の広報について、マスメディアを通じた方法等検討することが求められる。
- これらの検討事項等について、機構の業務にどのように反映し、どのように進捗したかフォローアップを本評議会においても報告してほしい。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。